



特別  
^13  
4222  
4



魏 膽色遊懷男 卷四

目錄

をまどとせし瞬のほは枕

おまぐ馬小のりあひあつ  
西をたつ側おえまの女帝  
春衣まらめあふ不忠を  
お敬をてりしとて

かりふゆふあふとましく枕

お性木と竹あつとあつ  
女史中春へ侍れ軍場  
長法の眞はまを介めが  
ちあふくろ楠をまてう



浮氣は長寿合枕

上野丸橋長寿寺の苑庭  
下戸も酒ふくむ暮共中  
藝多し正之冠食は徳を

花嫁三人の栗合子枕

浅草丸橋長寿寺の苑庭  
りゆて来るつらね言ん  
わたりり奇にあり神代  
三人をうへりあつて世より  
山と人へりあり

たまごかき辨は波枕

系太坂丸橋長寿寺の苑庭  
かた戸吉原とつらね言ん  
る雄小室為雲を一切をて  
三百ひきのをこふの言  
めはるは各自本橋と  
たんごかきを辨は波枕  
さりとて辨は波枕の  
まきかぬちとまきか  
ひらり上下のあけて  
伏白も揺れをさり  
正之冠を正之冠  
あまそこのまふ  
彼は若れ有衣ふれ付と

かきつり念書所立敷小らて後弟の  
御名所代系をたつて之を王の行儀を  
宗厚乳の三回人の大人りや男子を  
平してさうくかむおが我事よわとより  
付てをさきと彼大人つむころ未詳家  
胞と懐とさるるとさむか何と書美か  
何光あつるといふとわきを言はあ  
ののち町せうこれあは津風はは  
武蔵のよむおのびあめんつうま  
家とて度ちりうて教諭で流びの  
きまひて何ふひと不足のあ大人  
方を辨別はあつころかれおとさ  
か何とおまのの身ち切まひして  
まふまのまふたわをわきし  
とをせまどの中流のまのま

とて希さやせうまわうかては戸の  
三を津は後里の中あて背うをのつ  
恐をあれ人かをさてあつころは大人  
芳うさまとありさるさるさるあり  
まねごやわらうらうらうらうら  
おまおのらまは私たよは内流の御  
あて中同きて我をあてさるま  
かへてりまはあやとせりま  
ととまをまをまをまをまをま  
あまのは鼻のまはあはあ一相  
そ大抵のまはあまをわわわわ  
首尾はあまをまをまをまをま  
らまをまをまをまをまをま  
首尾せうらうらうらうら













よりきき六月廿七日諸將多きて市のよう小  
中からの金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ  
此の金銀銅ハとまなちうとくこの止那ハ

とる事化のゆとりのちをたねておくこの  
まゆふらに何れゆとりのちをたねておくこの  
らちわのゆとりのちをたねておくこの  
まゆふらに何れゆとりのちをたねておくこの  
らちわのゆとりのちをたねておくこの  
まゆふらに何れゆとりのちをたねておくこの  
らちわのゆとりのちをたねておくこの  
まゆふらに何れゆとりのちをたねておくこの  
らちわのゆとりのちをたねておくこの  
まゆふらに何れゆとりのちをたねておくこの  
らちわのゆとりのちをたねておくこの







浮氣浪家奇合枕

同下格とよまふも... 是之任合の... 家奇浪の... 是なる... 孫の... 撥者の... 宿久... 念... 是... 海... 是... 僅... 廣...

... 是... 海... 是... 僅... 廣... 同下格とよまふも... 是之任合の... 家奇浪の... 是なる... 孫の... 撥者の... 宿久... 念... 是... 海... 是... 僅... 廣...

船の座のよりの危ぶる白木橋筋の  
 りのうけに故種と花を親町のうけら  
 ぬ家業の通町の夜に故家業中務が  
 丁らにねえ押付故家ののこまの橋筋町  
 のうけのけけ口をゆえ座の中務の武を  
 野に故類先のあきつ法系をのあけ家  
 のまも故家の盤と地中懐業をもうめ  
 するおんせきの珠粒の眼をねえら  
 丁の法系をのりもとを中務ふへんを  
 男の訓とふ故業の法系中務ふんめ  
 まるが男に故家者ふあもらるが追付題を  
 健とあつふ余の勢をわらへるをんまを  
 本屋しまらるるおまわふふ男大身故  
 小七のふの故家者まらひて視紙とり  
 よきておまらるらと書るまららるら成

とうり親町のよりの危ぶる白木橋筋の  
 故家業の通町の夜に故家業中務が  
 丁らにねえ押付故家ののこまの橋筋町  
 のうけのけけ口をゆえ座の中務の武を  
 野に故類先のあきつ法系をのあけ家  
 のまも故家の盤と地中懐業をもうめ  
 するおんせきの珠粒の眼をねえら  
 丁の法系をのりもとを中務ふへんを  
 男の訓とふ故業の法系中務ふんめ  
 まるが男に故家者ふあもらるが追付題を  
 健とあつふ余の勢をわらへるをんまを  
 本屋しまらるるおまわふふ男大身故  
 小七のふの故家者まらひて視紙とり  
 よきておまらるらと書るまららるら成





ゆふのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ  
ゆふのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ  
ゆふのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ

まはるゝのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ  
ゆふのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ  
ゆふのひのあはれまゝいひて我一命  
あふらむを思ふまゝにむすぶまのな  
まをこけ命とぞいふまはるゝ  
細きとてまはるゝのひのまはるゝ



花嫁と三人の女

念堆寸の世に集大着るを情水あり  
有るものは長身な女ありさし食事も  
をいふしとてまはりの妻の道りて後  
りてらるるもいふまじつとていふ海母り  
有りぬのいもいふ念集れそ今も骨  
をいふまじつとていふまじつとていふ  
かしてとて骨集れを腹の下りてる本  
男ありたういふいふはてをさるるの道  
れありてく海母れ教もいふまじつと  
あそとていふ海母れをいふまじつと  
わりの海母れいふまじつとていふまじつと  
まじつとていふまじつとていふまじつと

ひらけての世に集大着るを情水あり  
有るものは長身な女ありさし食事も  
をいふしとてまはりの妻の道りて後  
りてらるるもいふまじつとていふ海母り  
有りぬのいもいふ念集れそ今も骨  
をいふまじつとていふまじつとていふ  
かしてとて骨集れを腹の下りてる本  
男ありたういふいふはてをさるるの道  
れありてく海母れ教もいふまじつと  
あそとていふ海母れをいふまじつと  
わりの海母れいふまじつとていふまじつと  
まじつとていふまじつとていふまじつと



集の女は若くは幼かや世も元は徳長也と  
 小判物でんを伝は身よりなりて小判の命を  
 を仇むるは爲され町人の娘也は其の親まの  
 目利を悉く極るは舞とつては事あれは  
 我が多かり多ぬをとりて是れはやく武  
 秀社よまじし男先がたねに母のととのぬ  
 町の身とては元來の口是女方にやま  
 たらふにけるは元先は元先は町人の  
 の娘もはむしあはれといふのみまをいぞ  
 るるの材木所は飛浮山三木といせは  
 上とては黒袴はあつけのぬかふ女房  
 小中とては元先といふはあはれにたの  
 三の娘の中へ入るては事とては代自  
 傍鼻よりけしてはあはれより退りけは  
 うをじしと女よりくといふをまよるなり

三木向のふらまじしはあはれにうむては  
 事なるは元先は元先といふはあはれに  
 町の娘もはむしあはれといふのみまをいぞ  
 るるの材木所は飛浮山三木といせは  
 上とては黒袴はあつけのぬかふ女房  
 小中とては元先といふはあはれにたの  
 三の娘の中へ入るては事とては代自  
 傍鼻よりけしてはあはれより退りけは  
 うをじしと女よりくといふをまよるなり





此は多入今も多しやと申す事をあはれ  
 之好むにまてえりしものよし由<sup>よ</sup>ふ三  
 の伴<sup>つら</sup>に禮<sup>れい</sup>治<sup>ち</sup>をまてえりしものよし  
 せりて申す事と申す事と申す事  
 二ふ後<sup>のち</sup>の事と申す事と申す事  
 家<sup>け</sup>のりり毎<sup>まい</sup>夜<sup>や</sup>の事と申す事  
 情<sup>なさけ</sup>の塊<sup>かたまり</sup>ありし事と申す事  
 根<sup>ね</sup>とていふ事と申す事  
 願<sup>ねが</sup>ふ事と申す事  
 事<sup>こと</sup>と申す事  
 可<sup>べ</sup>股<sup>ふ</sup>は事と申す事  
 け<sup>け</sup>事と申す事  
 物<sup>もの</sup>の事と申す事  
 同<sup>どう</sup>子<sup>し</sup>先<sup>せん</sup>ありし事と申す事  
 小<sup>せ</sup>事と申す事



